



岳南地域豪雨災害減災協議会 現状の水害リスク情報や取り組み状況の共有

平成29年3月13日
静岡県富士土木事務所

現状の水害リスク情報の共有

土木事務所管内の管理河川の状況

静岡県

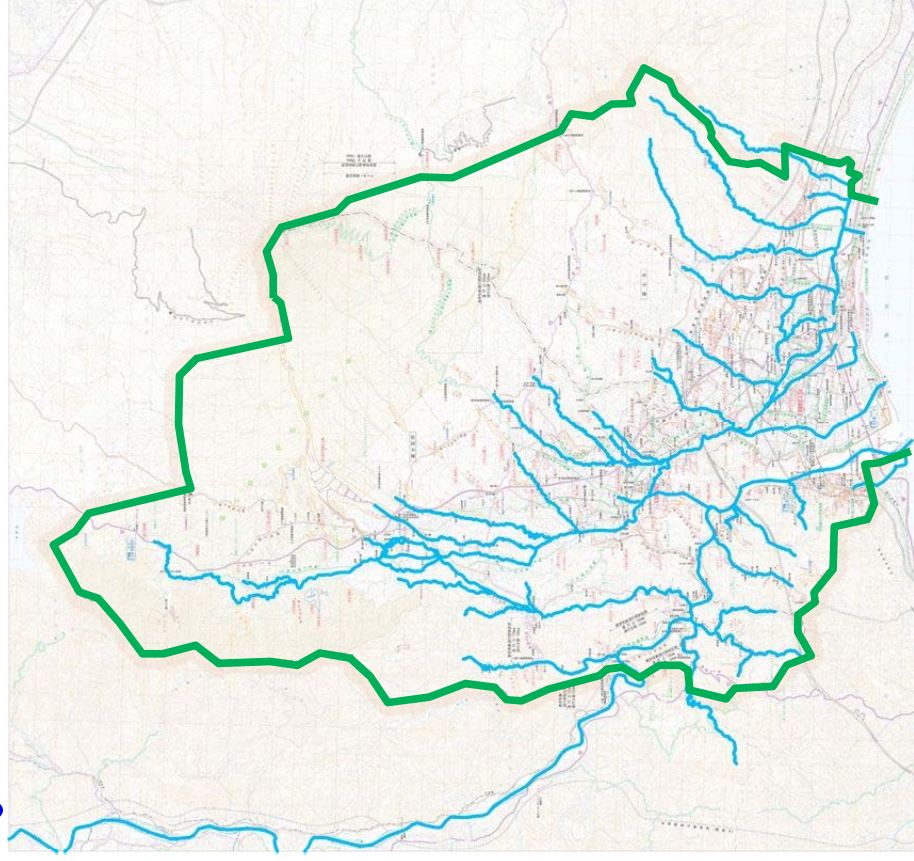
富士土木管内の管理河川

富士土木管内の岳南地域は県の東部に位置し、**富士市、富士宮市の計2市**があり、**面積は634km²で県全体の約8%**を占めている。また、人口は38万8千人あまりで、県全体の約11%を占めている。

管内管理河川は、放水路や分流などにより富士川とつながっている。このため、すべて一級河川富士川水系となっており、**1水系44河川、直轄流路延長は約205.4kmと県全体の約7%**を占めている。

管内の地形は、富士山の裾野と日本三大急流のひとつである富士川の沖積平野からなり、急峻な山腹、これに続く扇状地、海岸近くに広がる低平地と際立った対照的な特徴を有している。このため、潤井川上流域などの山地部においては、土砂流出が発生しやすく、沼川下流域などの低平地では地形的要因から内水排除に苦勞してきた。

このような地域特性を持つ管内河川の治水安全度は未だ十分ではなく、**台風や集中豪雨に伴う出水により甚大な被害の恐れがあることから、河川改修事業を促進**している。

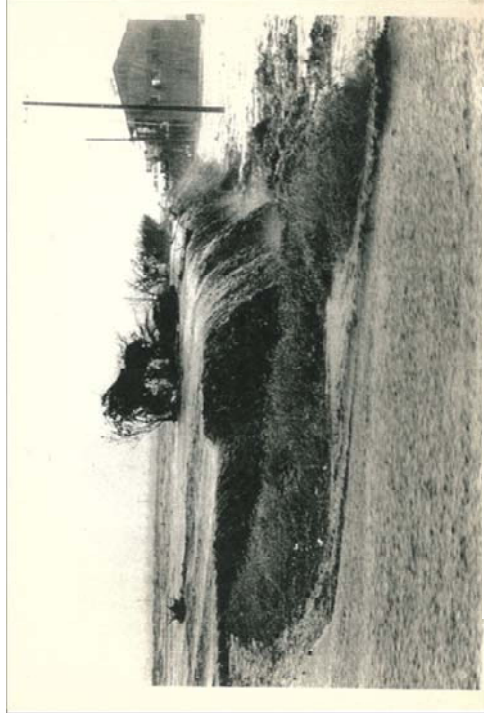


	水系	河川数	法河川延長 (km)	代表河川
一級河川	富士川水系	44	205.4	沼川、潤井川、弓沢川等
二級河川	-	-	-	-
合計		44	205.4	

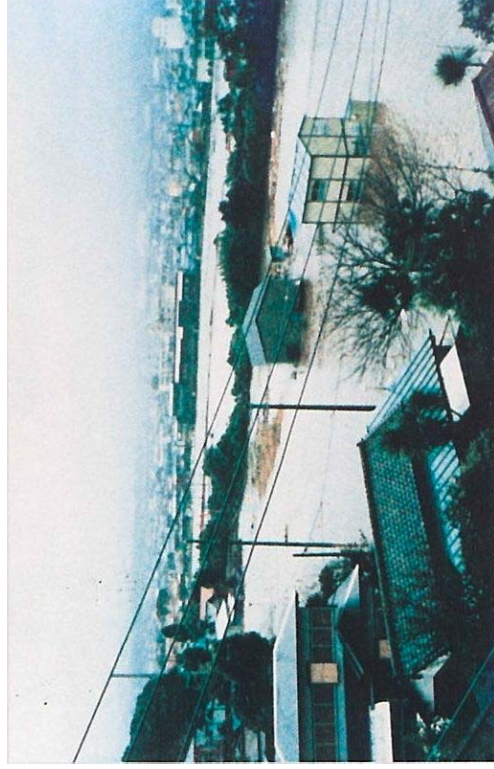
潤井川流域

潤井川では、昭和20年10月の出水を契機に中小河川改修事業により整備が進められてきたが、富士市、富士宮市の両市街地は度々被害を受けている。

昭和54年の台風20号による降雨では、時間最大雨量83.5mmを記録し、この雨による富士宮市での被害は、床上浸水615戸、床上浸水1,688戸にも及んだ。



昭和54年10月18日台風20号
潤井川 山橋上流右岸



昭和54年10月18日台風20号
富士宮市大中里付近 浸水状況



昭和54年10月18日台風20号
県道富士宮由比線野中橋

稲子川流域

稲子川では、**昭和60年の台風6号による降雨により**、延長 $L=1,365m$ にわたって護岸の流失がおきており、災害関連事業による改修が行われた。



昭和60年6月29日台風6号
稲子川 被害状況

弓沢川流域

弓沢川流域では、**昭和54年の台風20号に伴い**最大時間雨量 $83.5mm$ の降雨にみまわれ、床上浸水657戸、床下浸水2,058戸に及ぶ被害が発生した。



昭和54年10月18日台風20号
弓沢川 被害状況

沼川流域

昭和49年7月洪水は、台風8号及び梅雨前線の豪雨によるもので、浮島低地及び富士市街地が広範囲渡り浸水し、**床上浸水695戸、床下浸水1,369戸**の被害を記録した。



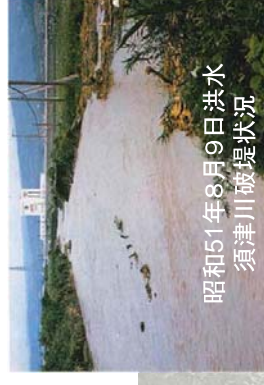
昭和49年7月7日洪水
富士市今泉



昭和49年7月7日洪水
富士市神谷



昭和51年8月9日洪水
富士市吉原本町



昭和51年8月9日洪水
須津川破堤状況



昭和51年8月洪水は、低気圧及び前線の豪雨によるもので、浸水範囲は昭和49年7月洪水を上回り、戦後最大となる**床上浸水895戸、床下浸水2,871戸**の被害を記録した。

主な洪水被害の状況

静岡県

沼川流域

近年においても、地形的要因等により内水被害が頻発しており、平成19年7月、平成26年10月の洪水などで被害が発生している。



平成19年7月14日洪水による浸水状況



平成26年10月6日和田川
市道冠水状況



平成19年7月15日江尾江川
河道状況



平成19年7月15日江尾江川
市道冠水状況



平成26年10月6日小潤井川・伝法沢川
合流部 浸水状況

近年の避難勧告等の発令状況



- 平成25年6月の災害対策基本法の改正により、避難の「指示」には**屋内での退避等**も含まれることになった。
- 平成26年4月の「**避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン**」改訂において、避難勧告等は空振りをおそれず早めに出すことを基本とされ、また、避難勧告等の発令時には、外が危険な場合には**屋内安全確保**をとることも伝達することとされた。
- 平成26年度以降の富士土木管内での市が発表した避難情報等の発表回数はこちらのとおりである。

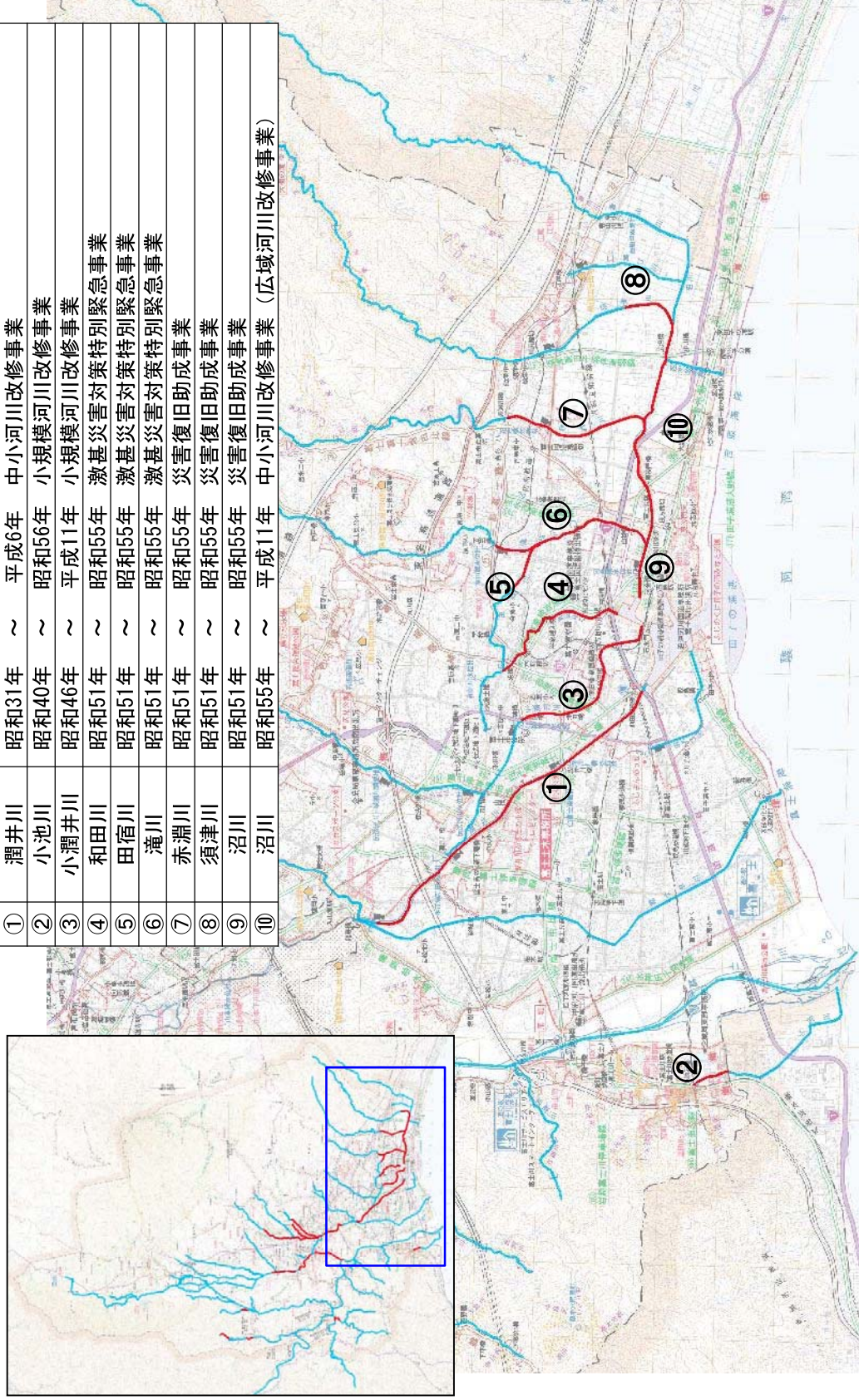
日付	災害名	富士市		富士宮市			
		原因種別	避難準備	避難勧告	原因種別	避難準備	避難勧告
H26. 10. 6	台風18号	土砂災害 台風	●	●	台風		●
H26. 10. 13	台風19号	土砂災害	●		台風		●
H28. 9. 19	台風16号	土砂災害	●				
H28. 9. 20					土砂災害		●

過去に行われた河川整備の状況

静岡県

富士市

河川名	事業年次・事業名
① 潤井川	昭和31年～平成6年 中小河川改修事業
② 小池川	昭和40年～昭和56年 小規模河川改修事業
③ 小潤井川	昭和46年～平成11年 小規模河川改修事業
④ 和田川	昭和51年～昭和55年 激甚災害対策特別緊急事業
⑤ 田宿川	昭和51年～昭和55年 激甚災害対策特別緊急事業
⑥ 滝川	昭和51年～昭和55年 激甚災害対策特別緊急事業
⑦ 赤淵川	昭和51年～昭和55年 災害復旧助成事業
⑧ 須津川	昭和51年～昭和55年 災害復旧助成事業
⑨ 沼川	昭和51年～昭和55年 災害復旧助成事業
⑩ 沼川	昭和55年～平成11年 中小河川改修事業（広域河川改修事業）

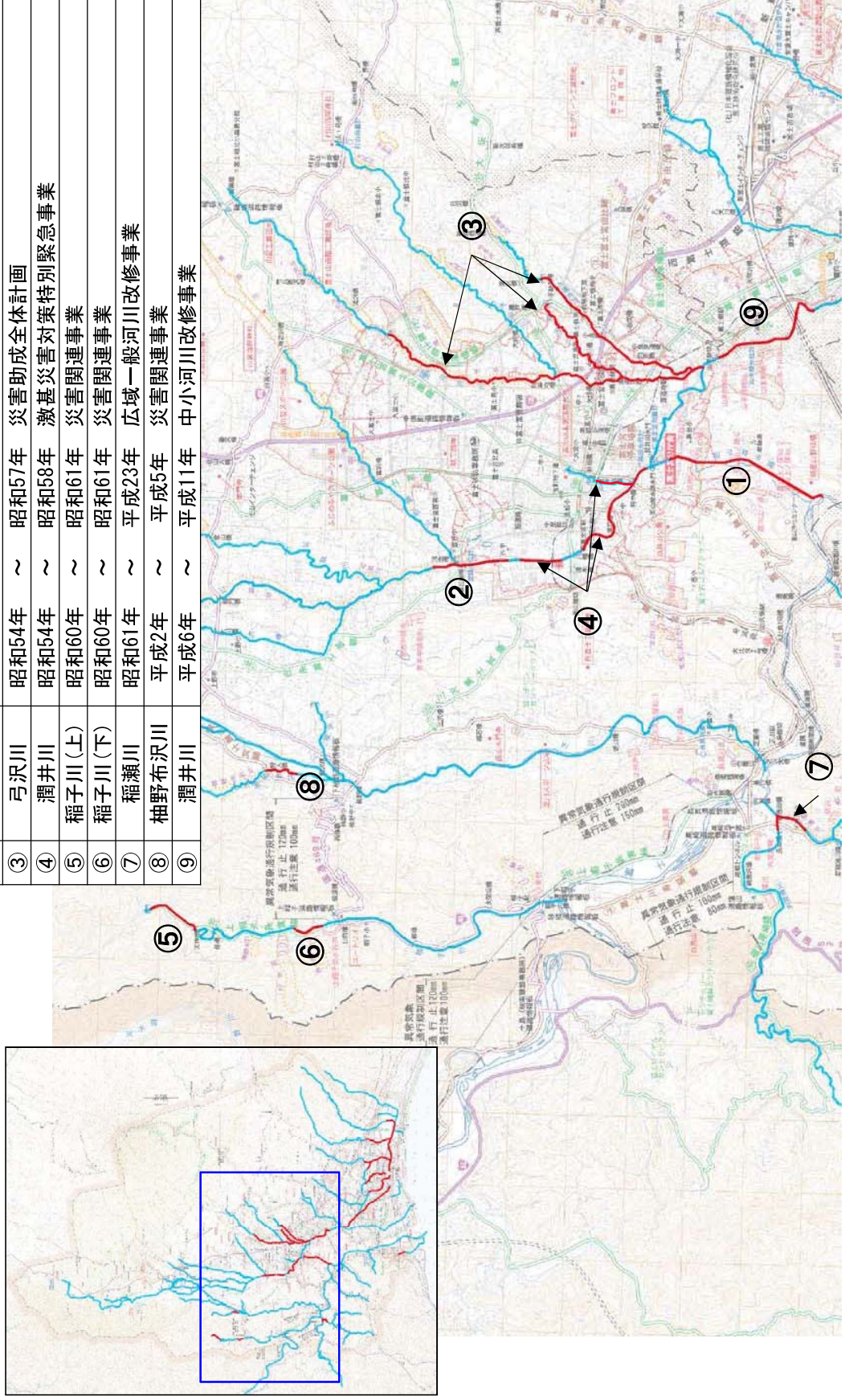


過去に行われた河川整備の状況

静岡県

富士宮市

河川名	事業年次・事業名
① 星山放水路	昭和44年～昭和49年 小規模河川改修事業
② 潤井川	昭和47年～昭和48年 災害関連事業
③ 弓沢川	昭和54年～昭和57年 災害助成全体計画
④ 潤井川	昭和54年～昭和58年 激甚災害対策特別緊急事業
⑤ 稲子川(上)	昭和60年～昭和61年 災害関連事業
⑥ 稲子川(下)	昭和60年～昭和61年 災害関連事業
⑦ 稲瀬川	昭和61年～平成23年 広域一般河川改修事業
⑧ 柚野布沢川	平成2年～平成5年 災害関連事業
⑨ 潤井川	平成6年～平成11年 中小河川改修事業

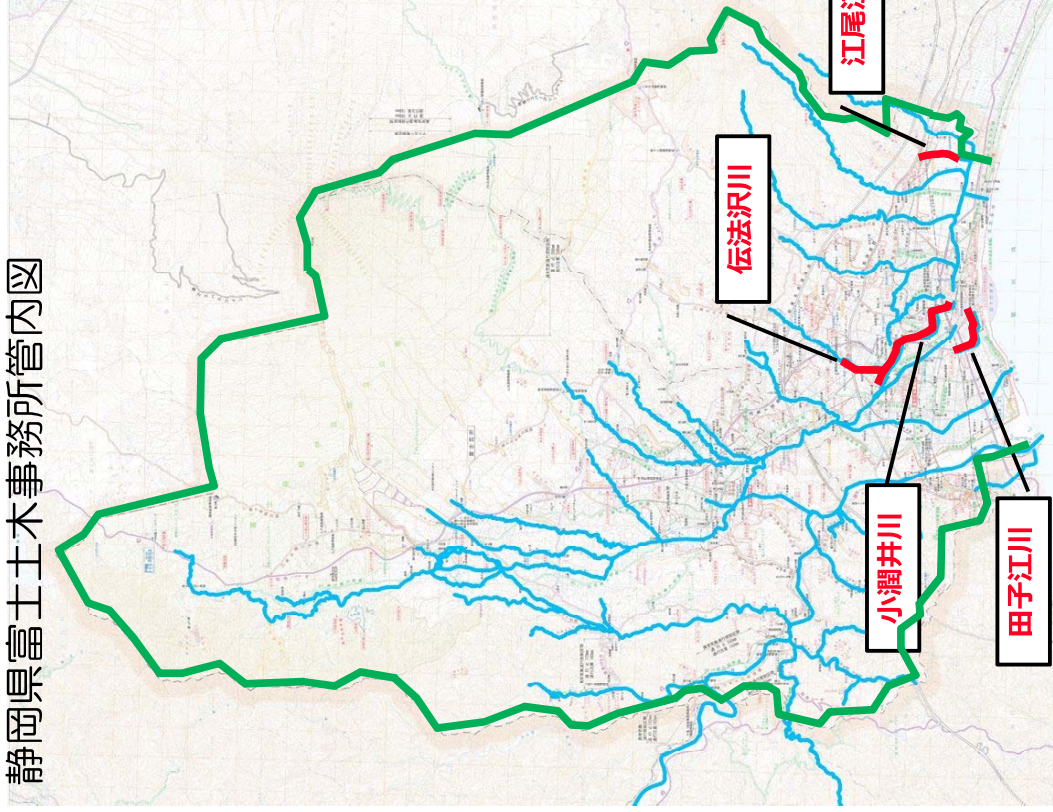


河川整備の状況

静岡県

河川整備計画策定河川

静岡県富士土木事務所管内図



今後20年～30年間で実施する具体的な工事の内容及び維持管理の方法を定めた法定計画

河川整備計画

富士土木事務所管内では1水系の河川整備計画を策定済

水系	対象河川	河川整備基本方針	河川整備計画	備考
富士川	田子江川	H15. 2策定	H26. 2策定	
富士川	沼川ほか 3河川	H15. 2策定	H24. 5策定	小潤井川 伝法沢川 江尾江川

総合的治水対策アクションプラン

近年頻発する局所的な集中豪雨に伴う浸水常襲区域において、関係機関が連携してハード・ソフト対策を効果的に組み合わせることにより、浸水被害の軽減（床上浸水被害の概ね解消）を目指す取組であり、管内では「和田川、小潤井川、伝法沢川」で平成20年度から実施中。

最近の主要な河川整備の実施箇所

静岡県

水系	河川名	事業実施河川	主な内容
1	富士川	山梨静岡広域連携事業	<ul style="list-style-type: none"> 掘削 護岸整備
2	富士川	総合流域防災事業	<ul style="list-style-type: none"> 築堤 掘削
3	富士川	広域河川改修事業	<ul style="list-style-type: none"> 掘削 護岸工
4	富士川	河川改良事業（県単）等	<ul style="list-style-type: none"> 調整地整備
5	富士川	都市基盤河川改修事業	<ul style="list-style-type: none"> 掘削 護岸工

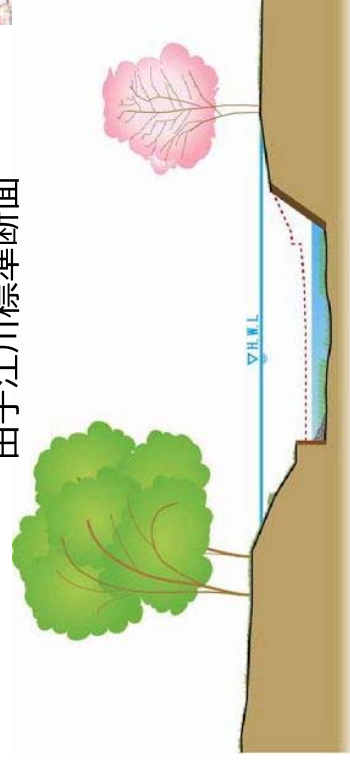
主な事業実施箇所



■ その他の河川についても、治水安全度の緊急性、地元要望等を考慮して、整備を進めている。

- 局部的な河川改修の実施
- 老朽化した河川管理施設の整備
- 河道内の堆積土砂撤去・伐木・除草
- 津波対策 等

田子江川標準断面



最近の主要な河川整備の実施箇所

静岡県

伝法沢川

伝法沢川では、小潤井川との合流部で河床勾配が急に緩くなるため川の水が流れにくくなり、浸水被害が発生している。このため、洪水調節を目的とした調整地整備により流下能力の向上を図る。

平成26年度に完成し、現在供用を開始している。



伝法沢川・横堀川調整地

田子江川

田子江川では、沿川に家屋が連担し、河道が狭小なため浸水被害が発生している。このため、河道掘削、護岸整備等により、流下能力の向上を図る。

平成28年度末時点で、河口から600m区間の整備が完了している。平成29年度は橋梁詳細設計を実施予定。

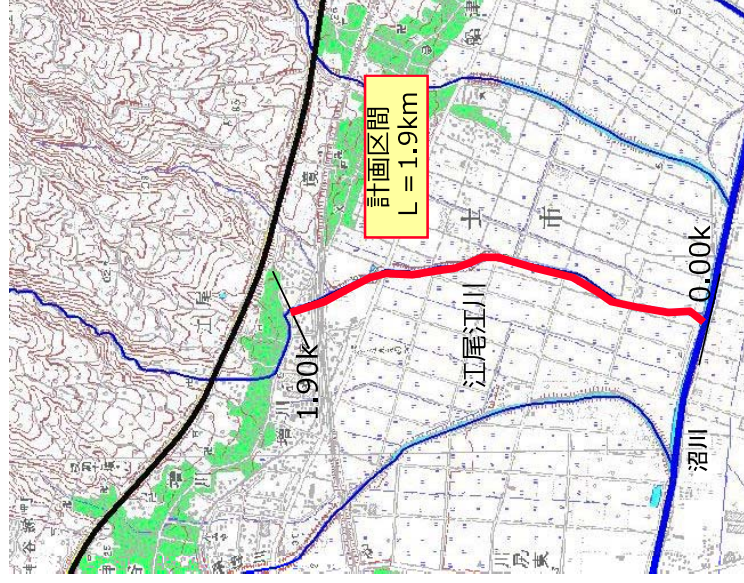


最近の主要な河川整備の実施箇所

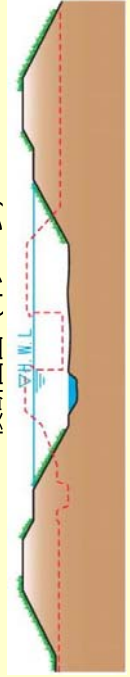
静岡県

江尾江川

江尾江川では、流下断面の確保を目的として、沼川合流点から江尾橋までの1.9km区間において、河床掘削、築堤などの河川整備を行う。
平成28年度は、設計・調査を実施しており、平成29年度は、用地買収を実施予定。

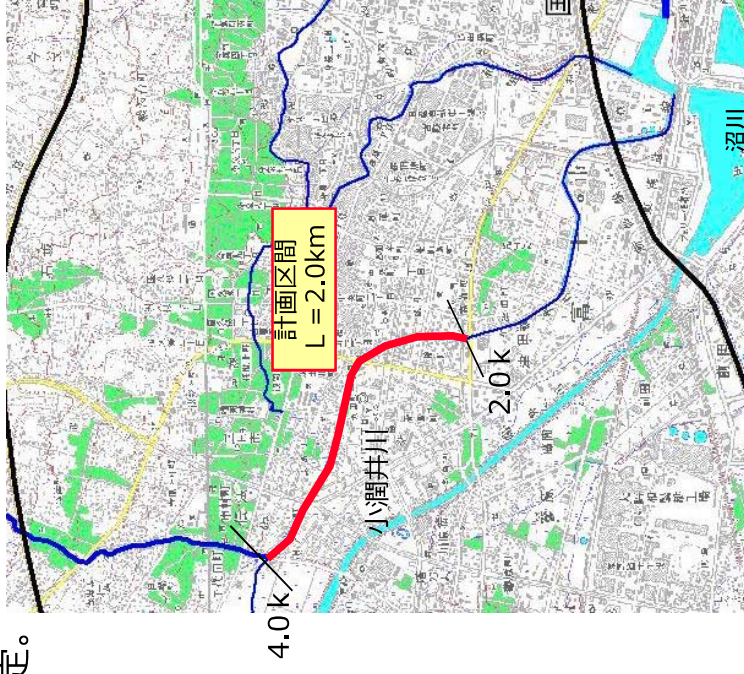


横断面図 (イメージ)



小潤井川

小潤井川では、流下断面の確保を目的として、2.0k地点から伝法沢川合流点までの2.0km区間において、河床掘削、築堤などの河川整備を行う。
平成28年度は、調査・設計を実施しており、平成29年度は、橋梁部の拡幅工事（仮橋）を実施予定。



横断面図 (イメージ)



最近の主要な河川整備の実施箇所



静岡県

土木事務所管内において、流下断面の確保を目的として、浚渫や河道内の樹木伐採を実施している。

五斗目木川一倒木除去

大堰川一伐木工

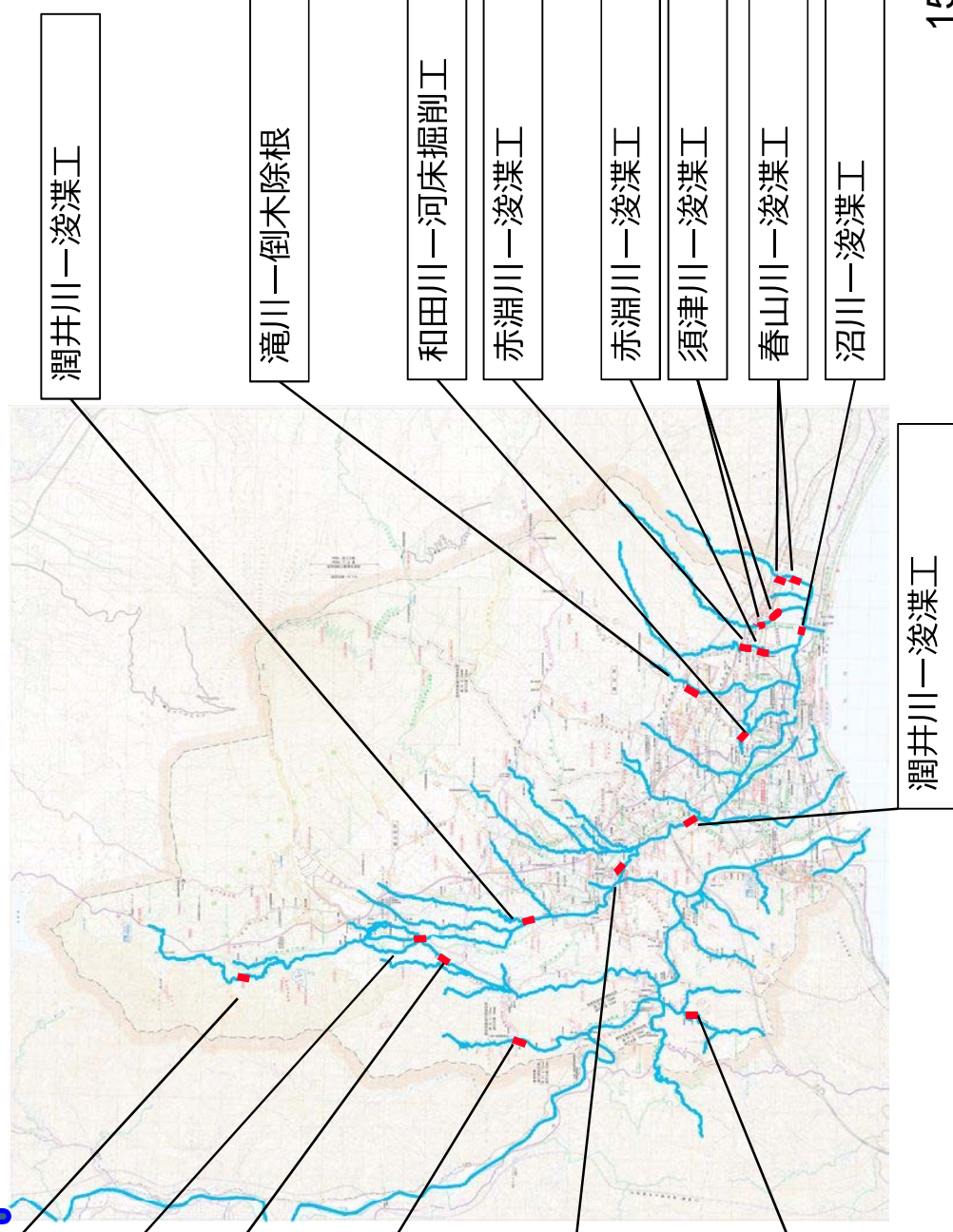
芝川一河床掘削工

稲子川一浚渫工

潤井川一浚渫工

稲瀬川一浚渫工

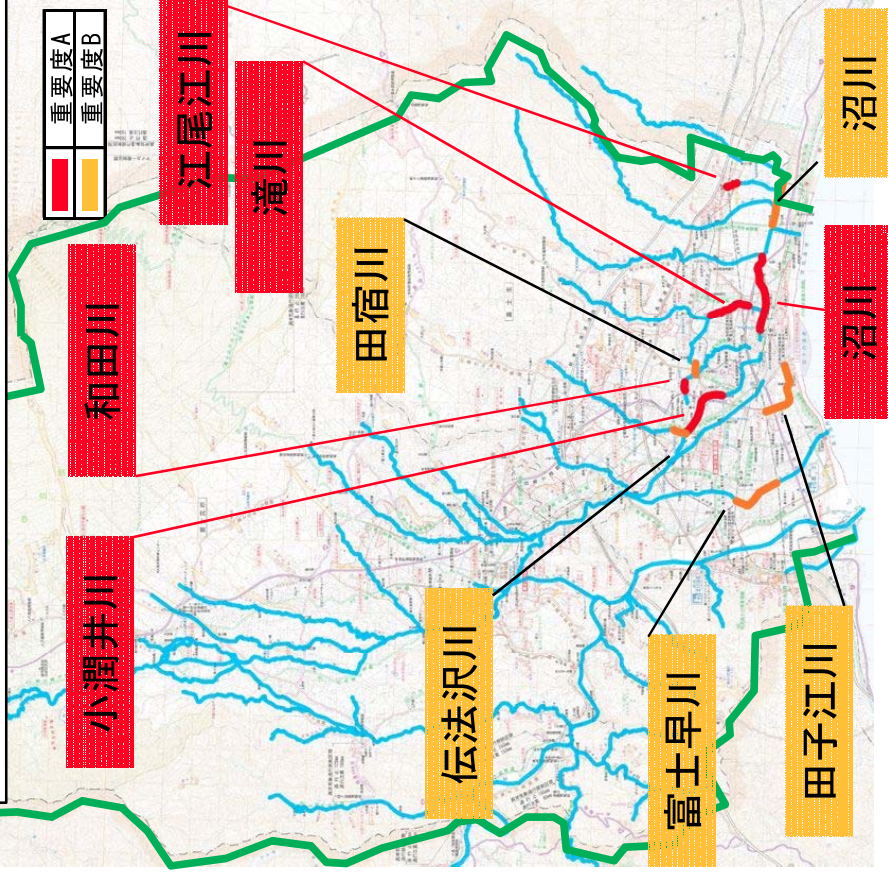
富士土木管内の浚渫等実施箇所（平成28年度）



潤井川一浚渫工

■重要水防箇所

- 堤防の決壊、漏水、川の水があふれる等の危険が予想される箇所であり、洪水等に際して水防上、特に注意を要する箇所を位置付けている。
(破堤跡、流下能力不足、堤防高・断面不足、漏水・洗掘、堰・橋梁の流下疎通阻害、樋門・樋管等の老朽化等による被害が想定される箇所)
- 重要水防箇所として県水防計画書に記載するとともに県のHPで公表している。
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-320/suiboukeikaku.html>
- 出水期前に県と市で河川パト（堤防点検等）を実施し、水防上危険箇所の情報共有を図っている。



重要水防箇所(富士水防区)

	重要度A	重要度B	計
河川数	5	5	10
箇所	5	5	10
延長(m)	6,900	5,980	12,880

重要水防箇所の区分

種類	重要度A	重要度B
内容	洪水出水中定期に巡回、監視して情報を通報すべき箇所 (洪水注意報を受けたときより巡回、監視に当る)	洪水出水中随時巡回、監視すべき箇所 (洪水警報を受けたときより巡回、監視に当る)
富士水防区 評定基準	時間雨量	30mm/h
	日雨量	130mm/日相当の降雨量
	施設被害の 想定規模	200戸以上の家屋
		25戸以上の家屋